《平成30年度　農業委員会事務局　組織目標の達成状況》

◆目標管理者

事務局長　　杉江　茂樹

	1. 現状認識 （重点目標の背景となる現状・社会の動向・現場の課題など）	2. 重点目標	3. 目標達成のための取組と成果目標	4. 課題解決に向けた平成30年度の具体的な取組 【年度末実績】
1	・農業収入では安定的な生活が見込めない不安や、後継者のいない高齢の農業者が増加しているため、農地の売却（宅地等への転用）や、不耕作農地や耕作放棄地の増加につながっています。また、担い手が主体性と創意工夫を発揮して、経営発展できるよう農地の集積・集約化を促進する必要があります。	①・『人・農地プラン』を基に、関係機関（市農林水産課、JA、県農産普及課）と集落・地域が連携を図り、農地等の利用の最適化の推進に関する指針に掲げる『遊休農地の解消』『担い手への農地利用集積』問題の解決・解消に繋げます。	①【取組】 農業委員、最適化推進委員、関係機関で構成する農地利用最適化ブロック推進会議を設置し、『人・農地プラン』において各地区で出された課題解決に向け、農地利用集積に向けた取り組みを進めます。 【成果目標】 農地利用集積・集約化を推進します。 農地利用集積面積 H29　559ha ⇒ H31　741ha 集積率 H29　43.0% ⇒ H31　58.3%	①【取組実績】 『人・農地プラン』を基に、各地域毎（市内5ブロック）で農地の利用の最適化推進に関する取組みについてブロック会議を実施し、各地域が抱える問題と解決に繋げる具体的な取り組みについて方針を定めました。 また、遊休農地の発生防止、解消や担い手への農地利用の集積推進を図るため、農地相談会を開催しました。 【成果目標実績】 農地利用集積面積 H30　591 ha 集積率 H30　47.3 %
			②【取組】 農業委員、最適化推進委員、関係機関が連携を図り、農地パトロールを実施します。 【成果目標】 無断転用行為、耕作放棄地の発生防止、解消を推進します。 遊休農地面積 H29 4.1ha ⇒ H30 3.4ha ▲0.7ha 遊休農地割合 H29 0.33% ⇒ H30 0.26% ▲0.07%ポイント （ 0 ha ［平成36年3月目標値］）	②【取組実績】 最適化推進委員が主体となり、農業委員、関係機関と連携を図りながら農地パトロールを実施し、耕作放棄地の所有者に対して農地の適正な管理または請負耕作の相談、指導等を実施しました。 【成果目標実績】 遊休農地面積 H30　4.6ha 遊休農地割合 H30　0.37%